

令和元年度 第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

R1.9.20 (金) 14:00 ~ 総合事務センター会議室

1.開会

2.議題 (1) 事業報告

(2) 質 疑・ご意見

(3) 次回開催予定 第2回 R2年2月21日 (金) 14:00 ~

(1) 事業報告

【ナザレ園那珂事業所長】

①利用者マップ、介護度別・月別利用人数 (資料参照)

・利用者数 → 死亡、特養入所等で減。

【ナザレ園那珂事業所職員】

②事例発表 (資料参照)

・女性 72歳 要介護3 胃癌末期 余命1ヶ月 R1.8.31~9.5 利用
訪問看護 (医療保険)、訪問介護 (サポート24利用)

(資料参照)

(2) 質疑・ご意見

【自治会長】

- ・本人の希望で病院から自宅へ戻るというケースが今後も増えていくだろう。
- ・事例発表の方は意識がはっきりしていて、本人の希望で在宅生活になったが、意識がはっきりしていない方はどのようなになるのか。
- ・短い期間でもサービス利用は可能なのか。

【ナザレ園在宅総括所長】

- ・ご家族の判断になるが、関係各所が集り、その方についてどのようなサポートが出来るかを考えることが大切になってくる。
- ・短い利用も可能ではあるが、ドクターが最期まで関わっていただける体制にし、その方の最期を決めておくことが重要である。

【民生委員代表者】

- ・病院で治療する場合と自宅で看取る場合では金銭面ではどうなのか。
- ・家族の協力等の環境面が整っていれば、在宅生活の方が良いことだと思う。

【ナザレ園在宅総括所長・ナザレ園看護職員】

・介護度にもよるが、在宅での場合が安いのではないかと。

【自治会長】

・長期間になると、家族のサポートも大変になってくるだろう。

【ナザレ園在宅総括所長】

- ・病院での生活だと、短時間の面会であっても、病院へ出向かなければいけない。在宅生活の場合は、周りが騒がしくても、傍にいて一緒に何かができ、本人も家にいて表情が明るくなる。

【ナザレ園看護職員】

- ・朝起きて、「おはよう」と言えるのが良いとご家族は言っていた。

【外部医療関係者】

- ・本人が帰りたいということで、ご家族も一大決心だと思う。ケアマネに相談すると、すぐに病院に来てサービスを丁寧に説明してくださるので、本人もご家族も安心して在宅生活が出来ると思う。

【ご利用者家族代表】

- ・父が危篤の時、孫も「死」というものを感じ、「死」に対する考えが変わった。子・兄弟だけではなく、孫も加えて看取るのが良いと感じた。
- ・家族の中には在宅生活に不安を感じる人もいると思う。そういった人を説得することも今後必要になってくる。

【ナザレ園在宅総括所長】

- ・みんなが協力して、一人の負担が重くならないようにしなければいけない。利用者・ご家族の状況を見て、我々ヘルパーも訪問回数を増やしたりなどしている。

【那珂市役所】

- ・随時対応は、定期巡回している職員が出向くのか。

【ナザレ園在宅総括所長】

- ・電話を事務所で受けて、その方の近場にいる職員または訪問が終わって出向ける職員に指示を出している。

【外部医療関係者】

- ・出来る限り本人とご家族の不安を減らすために、ケアマネだけではなく、定期巡回の事業所など様々な関係各所と連携をしていくことが大切だと感じた。

【ナザレ園那珂事業所長】

- ・ご家族の方も最初は在宅生活出来るか不安に思っていたが、訪問看護、訪問入浴など様々な方がフォローし合って、「ありがとうね。」と、安心していただけた。

【ナザレ園在宅総括所長】

- ・9月26日、27日に全国老人福祉施設協議会の発表会が静岡県である。定期巡回で要介護4から自立して終了した利用者があるので、その方の事例を発表する予定。